



カナダ連邦生みの親
ジョン・A・マクドナルド

いろなあつれ

きが生じた。

こうした問題

は、一七九一

年、旧ケック

クを、オタワ

河を境として、

それぞれ立法、

司法組織をも

つたイギリス系の「上部カナダ」とフラ

ンス系の「下部カナダ」に区分すること

で、ある程度解決された。このときの「上

部カナダ」（現在のオンタリオ）「下部カ

ナダ（ケック）、ニュー・フランスウイ

ック、ノバ・スコシアの四植民地が、い

わばカナダのその後の経済的、文化的、

政治的發展の基盤になる。その頃、カナ

ダ西部はすでにジェームス・クックが発

見し（一七七六年）、ジョージ・バンク

ーバーやアレクサンダー・マッケンジー、

サイモン・フレインサー、デイビッド・ト

ンプソンらが調査・探検をし、毛皮交易

所を建てていた。

そのあと、カナダを主戦場とした米英

戦争（一八二二年）、米国との国境協定

（一八一八年）、さらに下部カナダでの

反乱（一八三七年）をへて、一八四二年、

上下カナダが合併されてアロヒンス、

オア・カナダに統一され、責任政府が結

成された。ノバ・スコシアにも責任政府

が許され、一八五五年までには他の三種

民地——ニューファンドランド、プリ

ンス・エドワード島、ニュー・フランス

ウィック——にも責任政府が設立された。

（ハドソン湾会社が「王領植民地」とし

てバンクーバー島の開発を認められたの

は一八四九年。バンクーバー島を含むロ

ッキー以西がブリティッシュ・コロンビ

ア州になつたのが一八六六年）。

そして、アメリカの南北戦争（一八六

一年）やメキシコの独立運動、イギリス

での北アメリカに対する反植民地ムード、

アロヒンス・オア・カナダ内における東

西間の対立などを契機として、全カナダ

統一への気運が高まってきた。そこで、

一八六四年、アロヒンス・オア・カナダ

と大西洋岸三種植民地の代表がアヒンス、

エドワード島の首都シャーロットタウン

に参集、アロヒンス・オア・カナダ側が

提案した英領北アメリカの連邦政府構想

へと大きく歩を進めた。そして一八六七

年の初め、英国議会は「英領北アメリカ

条例」を採択、同年七月一日同条例が英

王室会議によって発布されることにな

り、ここにアロヒンス・オア・カナダ、

ニュー・フランスウイック、ノバ・スコ

シアが合体することになった。同条例に

よつて、今後アヒンス・エドワード島、

ニューファンドランド、ハドソン湾会

社の北西領、および植民地ブリティッシ

ュ・コロンビアを加えることになったは

か、アロヒンス・オア・カナダがオンタリ

オとケックの二州に分けられ、オタワ

に中央政府が設立された。こうして、イ

ギリス国王の主権の下に、ドミニオン、

オア・カナダと呼ばれる自治領カナダが

発足した。

新生カナダの初代首相には、カナダ統

一を推進してきた「カナダ連邦主義の親、

ジョン・マクドナルド（保守党党首）が

選ばれ、カナダの国作りが始められるこ

とになった。まず手掛けられたのが、カ

ナダを政治的、経済的、物理的に統合す

る大陸横断鉄道で、まずハリファックス

一ケック間が完成し、間もなく（一八

八五年）ノース・ベイ（オンタリオ州）

バンクーバー間の鉄道も開通した。大

陸横断鉄道が、西部の開発とカナダ全体

の産業の発達に果たした役割は計り知れ

ない。その後、フランス系のウイルフレ

ッド・ロリエ首相の自由党政権下（一

八九六―一九一一）で、カナダの発展期

が始まった。すでに産業革命が国土を席

巻していた。外国からの移民が増増しカ

ナダの人口は一九〇一年から十年間に、

五四〇万から七二〇万人にふえた）、そ

れによつて小麦の産出高も一九〇一年の

五千六百万アッシュェルから一九一二年に

は二億三千万アッシュェルに飛躍した。

また、ユコンでは砂金が発見され、「ゴ

ールド・ラッシュ」騒ぎが起こつた。

世界はやがて第一次大戦に突入。カナ

ダは母国イギリスと共に参戦し、大戦が

終結するとベルサイユ条約に署名するほ

か、国際連盟にも加盟し、他の自治領と

ともに独立国として国際社会に仲間入り

することになる。以後、

世界的不況、「英連邦」を

発足させ、各自治領を英

国と同等の完全な「主権

国家」として認めた「ク

エストミンスタール条約」

（一九三一年）、第二次世

界大戦への参戦と戦後の

経済チーム（国民総生産

ドルから一九五六年には

三百十億ドル、一九六六

年には六十億ドル）など

驚異的に伸びた）などを

へて、今日に至る。その

間、カナダは国際連合の

創立に参画し、国連その

他の平和維持活動に協力

採択した。

広大な国土と多様な民族。こうした連

邦国がこれだけ存続できたのは、それだ

けで偉業と言えるかも知れない。カナダ

は国家の統一を守り、そしてカナダとそ

れほど違わない面積をもちながら十倍の

人口と国力を備えた隣国アメリカから真

の独立を維持するのには、多大な努力をし

てきた。一九六七年のカナダ連邦結成百

年祭とそれを記念したモントリオール博

覧会では、こうした努力の成果を世界中の

人々にみせた。カナダは、今、新しい百

年を着々と築いている。



連邦結成が語られたプリンス・エドワード島
シャーロットタウンにある州庁内の「ジョン・マクドナルド」